

わが図書館のここに注目！！

～鹿児島県立図書館～

貸出文庫の始まり

昭和23年当時、館長であった椋鳩十先生の、「県民全般がくまなく文化の恩恵を得られるよう運営しなくてはならない」との思いから、鹿児島県立図書館では貸出文庫を開始しました。

そこで、今回は貸出文庫の歴史を、少しだけ紐解いてみましょう。

第2次世界大戦前からアメリカの図書館活動として取り上げられてきた移動図書館の活用は、日本では実現には至っていませんでした。しかし、戦後、その効用が広く知られるようになると、1948年（昭和23年）7月に高知県立図書館が「自動車文庫」を開始しました。

鹿児島県立図書館でも、同年12月に自動車による配本を開始しました。椋氏は「鹿児島のように、山坂を越え、海を渡り、まことに廣大な範囲に市町村がばらまかされている県に於いては、『出来るだけ大きなかたまりの本が』、『一定の場所に』、『一定期間ある』ということに重点を置き、地方への配本方式を続けます。ここには、離島やへき地も含めた、「より多くの個人」への奉仕を大切にしたいといった椋先生の思いがありました。

やがて、「県内各地に県営の文化財を県民に奉仕する」という方式は「鹿児島方式」として全国に広がり、のちの「図書館ネットワーク」の原型となりました。

昭和23年にスタートした貸出文庫の取組は、令和時代になっても途絶えることなく、椋鳩十先生の思いを引き継いでいます。




配本車への積み込み作業

(鹿児島県立図書館報第六号)

令和7年度 貸出文庫利用状況

	一般教養図書	児童教養図書	計
13市町村	6,252冊	16,052冊	22,304冊

貸出文庫を中心とした主な動き (昭和20年～昭和50年)

昭和20年11月	開館
昭和21年12月	閲覧料徴収（図書購入にあてるための非常手段） 貸出10日1冊1円、貸出文庫1か月1冊1円
昭和24年5月	ジープ型配本車を導入し、県内を4ブロックに分けて、3か月1回の自動車配本開始。自動車による配本は、全国に先駆けて開始。
昭和25年	県立図書館を地方へ移すため、移動図書館が設置される。1単位1,000冊。
昭和27年7月	普通文庫、移動図書館について、農業文庫を設置。固定式文庫20を作成し、貸出開始。
昭和27年8月	県図書館協会結成
昭和29年6月	県広報車を改造し、配本車とする。書架2,000冊積載。「すばる」と命名。
	
昭和30年6月	「すばる」第2号購入。2,800冊積載。
昭和31年12月	県図協、公共図書館評価基準作成。
昭和32年1月	読書組織化運動開始。
昭和32年2月	農業文庫推進委員会発足。
昭和32年6月	農業文庫第1回発送。
昭和35年5月	親子20分読書運動開始
昭和35年8月	親子20分読書研究会
昭和41年	「すばる号」更新
昭和50年7月	「すばる号」更新
令和4年9月	「すばる号」更新（現在のすばる号）



先代の「すばる号」



現在の「すばる号」